

新宮山彦ぐるーぷ第2023回

## 持経宿にて熊野修験奥駈一行(10名)の湯茶接待と

### 前鬼・小仲坊裏の倒伐材の整理・薪作り

◇実施日；2019年05月19日(日) 曇り時々雨

◇参加者；沖崎吉信、川島 功、児嶋道夫、濱野兼吉、上村洋司・

和美、大江加代子・徳子、岩本信行、山川治雄・自知、  
生熊敏男。梶野照雄、山上皓一郎・昌子(前鬼で合流)。

15名

我々山彦の主行事と熊野修験との関りについて列挙してみる。

- ◎昭和59年6月9～10日；第一回刈峰行着手(持経～平治間)
- ◎昭和61年10月18日；刈峰行第一順完工祝賀会(新宮市民会館)
- ◎昭和61年10月27日；太古の辻に完工記念の導標設置
- ◎昭和61年11月1～3日；南奥駈道完通記念登山(29人)
- ◎昭和63年9月27～29；高木亮英師、本宮～深仙間案内(7人)
- ◎平成元年9月24日；行仙宿山小屋地鎮祭
- ◎平成2年7月1日；行仙宿竣工式
- ◎平成2年9月6～8日；高木亮英師、北奥駈案内(前鬼～柳の渡)
- ◎平成3年5月18～19日；熊野修験春峰入(玉置山～前鬼)サ  
ポート

◎平成3年6月16日；平治宿小屋竣工式

◎平成3年9月7～9日；熊野修験北奥駈行サポート

◎平成4年5月23～24日；熊野修験南奥駈行(12人)サポート

### 熊野修験の再興について

かつて修験の根本道場とされ、多くの修験者が山中で修業した熊野。ところが、明治政府による神仏分離令と修験道廃止令以降、活動は途絶えてしまう。また、廃仏毀釈により那智山内のお寺は殆ど廃屋同然となるが、以後関係者の努力により堂塔伽藍なども徐々に回復した。

私の父(青岸渡寺先代住職)も、その復興整備に努力した一人でし

た。実は父は熊野信仰を支えた熊野修験をいつか復興させたいという思いを心に秘めていたんです。昭和62年、父が亡くなった時、遺品の整理をしていたところタンスの奥から新品の山伏装束一式が出てきました。生前そんな話はしませんでした。熊野修験を復興しなければ、という父の強い意志を感じ、一念発起したんです。(別冊太陽「熊野」現代の熊野修験、高木亮英氏 青岸渡寺副住職・熊野修験正大先達談より)

昭和63年9月、玉岡元代表をはじめ先輩方が高木亮英師を初めて大峯へご案内した日を熊野修験の再興日、第一回奥駈行と定義しているようだ。以後、行仙宿と持経宿での接待を長く続けてきたが、今は持経宿でのみ接待をさせていただいている。



千年桧にシキミ・幟旗



スイカなどの接待準備



「刈峰行」看板設置

当日早朝5時30分、新宮を出る。沖崎車は高木氏よりの依頼で、行者さん用と山彦への差し入れ弁当25個を受け取りに「おむすび一郎」に立寄り、上村車を追う。

池原スポーツ公園で岩本さんが沖崎車へ、9名で持経宿へ向かう。なお生熊さんは昨日より熊野修験のサポートで行仙宿に一泊され、前鬼で合流。梶野君も同じく前鬼で合流となっている。

7時半過ぎには持経宿に着く。池郷林道はゲート先よりも集落より入って1～2km位のアスファルト舗装の小さな落石が気にな

り、3回ほど降りて除去した。

昨日、今日ともに曇り時々雨の予報で、小さな雨が降っている。気温も8℃でかなり寒い。この状態は一日続いた。女性陣はお湯を沸かしたりスイカを切ったり、と手際よくこなしていく。

川島、岩本のお二人は千年松祠へ幟を立てに、児嶋さんは「天然水コーヒーコーナー」のセッティングに忙しい。濱野、岩本の2名が水場へ、持経宿水場も枯渇状態で、水道水を持参したため「天然水ではないぞ！」と冷やかされていた。ほかの皆さんも薪整理などに忙しい。接待の準備も整い後は一行の到着を待つだけだ。そんな時、山川さん親子(軽トラ)が9時前に到着する。座敷用テーブルを寄贈すると、わざわざ持参いただいた。



熊野修験一行到着



不動堂で勤行



前鬼に向けて出発

9時を少し過ぎたとき、法螺の音が聞こえる。程なく一行の姿が見える。15名と聞いていたが、先達の坂本さんによると「昨日、13名で玉置山をスタートしたが、行仙宿で3名が下山。ここへは10名」とのこと。

早速、不動堂で花井君が導師で勤行される。行者姿の方は女性一名を含めた6名、一般登山姿の方が4名であった。熊野修験会員の方、どなたかが亡くなられたようで、西国一番札所の御詠歌を唱えられるなど、念ごろに供養されていた。昨日、今日と小雨

の中で気温も低く、皆さん暖かいものを所望されていた。勤行休息に約30分滞在され、9時40分前鬼に向けて出発された。後の片付けを手際よく終えて10時に前鬼へ向け持経宿を後にした。なお、持経宿の接待以外に次の作業を行った。

- ・小屋南側の貯水槽を排水・清掃。
- ・玄関横薪置き場に薪を補充。
- ・阿須迦利岳方向50mの所に”第80次刈峰行”看板設置。
- ・志納箱バージョンアップ。

### 前鬼・小仲坊にて

倒れると小仲坊建屋を直撃する恐れから、5〜6年前に切り倒された杉大木(樹齢150年ほど)の切除処理を続けている。

平成28年5月に第一回目を始めて、今回で5回目である。今年は2月10日以来の2回目になる。一年毎にきれいになりつつあるが、回を重ねるにつれて、太い幹(直径60cm越え)が残り、また斜面に横たわっている物が残ってきた。従って、処理に時間がかかるし難しく危険度も増す。小切った丸太を薪材に割っているが、今回も山川、児嶋、梶野の3名がチェーンソー担当である。



木々で埋め尽くされた谷



斜面の大物



写真上の木が谷に転落

11時半前に前鬼・小仲坊に到着。先着(10時頃)の梶野君は、小雨の中作業を始めていたが、声をかけて昼食とする。昼食後作業開始、小切った丸太を薪材に割り、東側の谷に残された木々の切除が、本日の主な作業である。



本日の作業参加者



谷筋もきれいに整理



薪材を積み上げ



小切った丸太



作業終了し撤収

慎重に作業を進めているが、チェーンソーを入れて、どちらに

木が傾くか、どう動くのかを見定めるのは熟練者でも難しい部分がある。今回も三度ほどヒヤツとする場面があった。かなりの大木なので一つ間違えると大きな事故となる。太い枝を切ると(支点になっていた)、一本の太木が斜面を転がり落ちて石垣と石垣の間、排水溝となっていた所にはまり込んでしまった。チェーンソーを入れる隙間が狭く簡単に切断できない。秋の台風シーズンまでに何とかせねばならない、宿題が出来た。前鬼でのマキ作り作業には熊野修験接待に來られた一部の方にもお手伝い頂いた。お礼申し上げます。14時半前に作業を終了、工具を撤収して、小仲坊で解散し下山した。尚、山上ご夫妻は、熊野修験一行が前鬼・小仲坊に到着し出迎えるために待機された。

(記：沖崎、写真：梶野、川島)

行動タイム

新宮 05:30 → 06:35 池原スポーツ公園 06:40 → 07:35 持経宿 10:00  
↓ 11:30 前鬼・小仲坊(昼食・作業) 14:20 → 14:30 解散。